



社会福祉法人多摩福祉会

保育・学童支援合同研究会が

第10回を迎えました。

2024年11月9日(土)に「第10回多摩福祉会 保育・学童支援合同研究会」が開催されました。

記念すべき第10回にあたり、法人合研部会では節目の年に何を学ぶか、テーマは何にするかを検討しました。その中で、原点に立ち返って『学ぶ』ということを考えあっても良いのではないかとの話になりました。そして決まった今回のテーマは、「私たちが学び続ける理由」法人合研10年のあゆみ」です。

昨年度の法人各施設を使用しての開催は好評でしたが、研修委員が分散してしまい、運営が大変だったことから、今年度の会場は

法人だより

たまふく

多摩市のこぐま保育園と、練馬区の

しろくま保育園の2施設としまし

た。昨年度の反省をふまえて事前準備も入念におこない、当日は無事に

2施設開催をすることができました。

こぐま保育園へは世田谷区と多摩市の各施設の職員が、しろくま保

育園へは同じ練馬区の向山保育園の職員がそれぞれ集い、オンライン

で法人全体をつないで全体会をおこないました。

午前中の全体会は、原点に立ち返

って多摩福祉会の精神に触れながら

改めて学ぶため、シンポジウム形式

をとり、多摩福祉会名誉理事の伊藤

亮子先生と上北沢こぐま保育園中

村嘉宏保育士にシンポジストをお願い

しました。伊藤名誉理事には委員

からの質問に応える形で、多摩福祉

会開設当時から学ぶ意欲の持ち

方や、子ども理解に必要な学びをお

話しいただき、中村保育士からは

今号の目次

1~3p 第10回法人合同研究会
4p 安心できる存在・場所(砦)

「たまふく」の
バックナンバーは
こちらから。



発行

〒155-0031
東京都世田谷区北沢 2-36-9-4F
社会福祉法人多摩福祉会
法人事務局
◆Tel. 03-6804-8345
◆Fax. 03-6804-8347
tamafukushikai@gmail.com

編集

◆広報委員会◆
中本琢也・江藤龍之介
亀田大・岡田織



「たまふく」の
ご感想を
お聞かせください。



多数いただきました。

また、全体会の後半には、今年度

新たに開園したしろくま保育園から

開園1年目の保育の様子、保護者と

の関わりなどについて報告してもら

い、法人の新たな一歩を共有するこ

とができました。新設園開園ならで

はの苦労や悩みを聞いて、改めて保

育・育成は子どもたち、保護者との

関係づくりが土台にあること、その

ための学びと子どもの育ちを職員・

保護者と共有しながら創っていく大

切さを改めてみんなで確認すること

ができました。



こぐま保育園会場では、施設ごとに顔見知りの職員がいて声をかけあったり、施設内を見て回ったりする姿がみられました。こぐま保育園のホールを埋め尽くす参加者の多さに研修委員は圧倒されましたが、協力的な参加者の皆さんと共に研修の場を作ることができました。



しらくま保育園会場では、しらくま保育園と向山保育園の職員が一堂に会して交流するのは初めてでしたが、向山保育園から異動した職員や、顔なじみの職員がいたことでお互い近況報告をして自然と和やかな雰囲気がつくられていきました。今年入職の新人職員の方々にとっては多くの職員が集う場に少々緊張した様子が見られましたが、研修が始まると伊藤名誉理事や、他施設の話も聞いたり、意見交換したりする中で、

一人ひとりがじっくりと学び交流を深めることができました。

どちらの会場でも、施設をこえて法人職員がつながりあい「子どもを真ん中にして」保育・育成を語る良さが「法人合研」で培われてきたことを実感しました。

午後もZoomでつなぎ「食」「関わり(子ども)」「保護者地域」「遊びと休息」の4つの分科会に分かれて実践提案を聞き、その後各会場の分科会グループごとにテーマに沿って議論しました。

各分科会の様子です。



テーマ【食】

『食』がテーマの分科会ということで栄養士・保育士・調理師3名からの提案がありました。栄養士・保育士・調理師のどの立場からも、子どもたちの食の経験を豊かにするために五感を使った食育実践を行っていることが報告されました。どの施設も保育現場と給食室が連携をとり、子どもたちと関わりながら実践していることが分かり共感できる内容でした。質疑応答では、給食職員から「施設の体制から給食を作ることに追われ、保育と遠ざかっている」という現状についての悩みが出されましたが、参加していた様々な立場や経験の職員から乗り越えていくためのアドバイスがあり、法人合研ならではの光景がみられました。



テーマ【関わり(子ども)】

提案を受けてそれぞれの会場で話しあいました。感想では「自分の状況と照らし合わせながら聞いた」や「同じ悩みをみんなが持っていることが分かったり、色々な角度からの意見が聞けたりして子どもへの理解が深まった」「同じ法人内で意見交換ができてよかった」などが出ていました。改めてゆっくり話ができる時間を持てたことで、職員の明日への活力につながったのを感じました。



テーマ【保護者・地域】



砧保育園から2つ、学童から1つ、こぐま保育園から1つの提案を聞いた後に、各会場で少人数のグループに分かれて分科会を行いました。少人数に分かれてからは、施設ごとの取り組み状況や、悩んでいることなどを率直に話し合いました。

保護者との関係作りでは、「保育士にとって当たり前だと思っていることも、保護者にとっては当たり前ではない」「相手の考えや困っていることなど相手を知ろうとすることが大切だと感じた」との感想が多く出されていました。また、学童と保育園、違う地域の施設の話聞いてヒントを得たり、同じような悩みがあってホッとしたりと「うちの園では何ができるかな?」とお互いにたくさん感じたことがありました。まだまだ話し足りないグループもあったようでした。

地域・環境の差もあり、悩みの尽きないテーマですが、今後も合研や様々な機会でも話していけると良いなと思います。

テーマ【遊びと休息】

こぐま保育園、向山保育園、上北沢こぐま保育園から実践報告がありました。各園が試行錯誤しながら、子どもにとってより良い保育になるよう迫及していることが話されました。遊びだけ、睡眠だけではなく生活全体を考えていくことの大切さ、異年齢保育の中で5歳児の存在の大きさや乳児の睡眠の保障など、集団、個別それぞれについて意見交換ができ良い学びの時間となりました。また、乳児期の生活がその先の土台になっていることや、成長していくきっかけとなる環境、保護者との関係づくりについても話すことができました。自分と照らし合わせながら参加することで他施設の様子を知る良い機会となりました。



参加いただいた皆様の御協力により、今年度も無事にこの研修会を締めくくることが出来ました。ありがとうございます。

いただいた感想やご意見の中には「顔を合わせてそれぞれの悩みや実践を聞き、悩んでいるのは1人じゃない、またがんばってみようと思えた」という声も多く、この研修会の意義を強く感じるものも多くありました。またさらに、意見の中には「多摩福祉会の職員みんなで集まりたい」「終日は長い」「ゆっくりと交流したい」という意見もあり、合研部会では、皆様の意見を考慮して次へ向けての歩みを始めていくところです。10周年を終えて来年度11回目をむかえるこの研修会ですが、一度初心にかえり、多摩福祉会の職員がみんな集い語らう場にしたいと新たな展開を考えています。

来年度もみんなで作る合研にご理解とご協力をお願いいたします。

法人研修委員会



「小中高生との関わり」
安心できる存在、場所」

碓 保 育 園 保 育 士

今年度の夏、碓保育園には職場体験として小学生は卒園児31名、在園児の兄弟児1名の計32名、中学生2名、高校生10名とたくさんの中中高生がお手伝いに来てくれました。

りすのおうち（2歳児）の子どもたちと小学生のエピソードです。4年生のMちゃんはこの夏3日間りすのおうちに遊びに来てくれました。実は昨年度も来てくれたMちゃん。「あっちの部屋で（1歳児クラス）会ったよね」と優しく言葉をかけてくれました。視線を合わせてくれたり、絵本を読んだり、ブロックを組み立てたり…一緒に遊んでくれて優しいMちゃんをすぐに受け入れて甘える姿も見せる子どもたち。特にAくんはMちゃんのことを大好きで、自分から絵本を持っていつて読んでもらったりと気になる存在のようでした。一緒に給食を食べた時もMちゃんの姿をじっと見



ているAくん。苦手な野菜をMちゃんが口に運ぶと…「バクツッ！」「たべた!!」と普段のAくんを知っている大人はびっくり！そのあともMちゃんに手を引かれ自分の布団に横になりトントンしてもらうAくん。静かに横になり、トントンしてくれらるMちゃんの顔をじーっと見ながら眠りについていました。普段とは違う姿に大人は驚きながら、気持ちを受け止めてくれるMちゃんに思いきり甘えているAくんの姿を嬉しく思いました。

また、夏は水の活動も始まる季節。夏季体制で職員の人数が少ない中でも、子どもたちの大好きなプールなど夏ならではの活動を保障したい反面、着脱などでは子どもの気持ちに寄り添いながら丁寧にすることができていないのではという悩みもクラスの職員で話されていました。環境を工夫しながらもどうしても人手が足りない…そんな中、小学生が来てくれた時は着替えも手伝ってくれ、気持ちをしつかり主張する子どもたちに「この服嫌なの？違うのにする？」と優しく向き合ってくれてそれぞれのペースで着替えをすることができたように感じます。数回来てくれている小学生たちはシャワーを始めると「着替え手伝おっか？」と自ら声をかけてくれて「一緒に着替えしよ〜」と子どもたちを誘ってくれる場面もあり、職員もとても助かりました。「大丈夫？疲れてない？」と尋ねてみると「せんせいって大変だね〜」と言う姿も。「とっても助かってるよ、ありがとうね」と



伝えると「うん！またくるね！」と笑顔で言ってくれる小学生がとても頼もしく、自分が小学生だったらこんなにできたのだろうかと感じました。そんな小学生たちの感想では「かわいくてしあわせでした」「とてもたのしかったです」という言葉もありました。また、保護者の方のお話では「小学校で友だち関係に悩み自信をなくしてしまっていたが、保育園で過ごすことで笑顔が戻って本当に嬉しい」といったことも伺い、手伝いに来てくれる子どもたちにとっても年下の子たちに頼りにされ、たくさん甘えられることで居場所のようなものを感じてもらえたのかなと思いました。卒園児がこんなに手伝いに来てくれることも嬉しいですし、卒園しても安心できる居場所であり続けられるのは本当にすごいなと思いました。在園の子たちがお兄さんお姉さんに思いきり甘える姿、また小学生たちも安心して自分らしく過ごしてくれている姿を見て、保育園という場所の存在や役割の大きさと、こうしてつながっていく素晴らしさを改めて実感した夏でした。